

# 横浜市感染症発生動向調査報告 4月

## 《今月のトピックス》

- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- インフルエンザの定点あたり報告数は、警報解除基準値を下回りましたが、横ばいです。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈4月期に報告された全数把握疾患〉

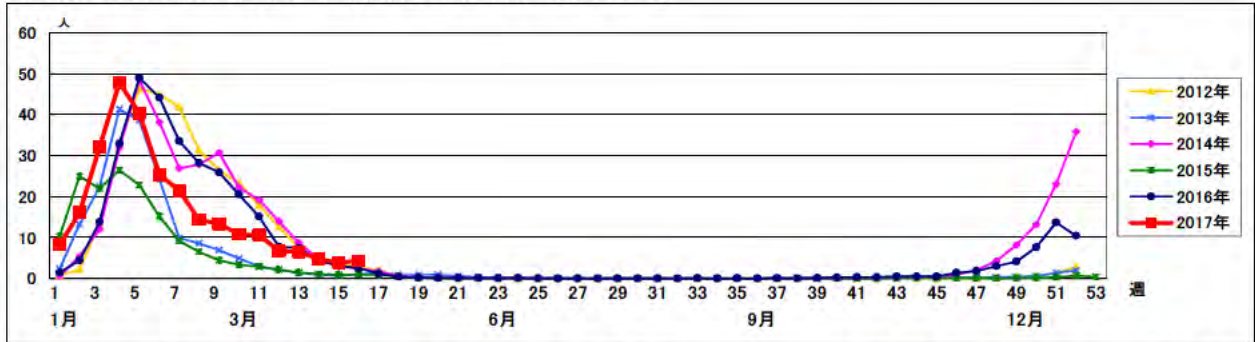
腸チフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	1件	梅毒	16件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	風しん	1件

- 腸チフス:1件の報告があり、バングラデシュでの感染と推定されています。
- E型肝炎:1件の報告があり、国内での経口感染と推定されています。
- デング熱:スリランカでの蚊による感染と推定される報告が1件ありました。血清型は2型でした。
- レジオネラ症:肺炎型の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢:4件の腸管アメーバ症、1件の腸管外アメーバ症の報告がありました。感染経路はいずれも国内で、異性間性的接触が1件、経口感染が1件、感染経路等不明が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎:水痘帯状疱疹ウイルスによる報告が1件ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病:古典型CJDが1件報告されました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:G群が1件報告され、感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、無症状病原体保有者の報告が2件(同性間性的接触が1件、異性間性的接触が1件)ありました。3件とも男性でした。
- ジアルジア症:1件の報告があり、インドでの水系感染と推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:b型の小児の報告が1件あり、ワクチン接種歴が確認されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:14件の報告があり、うち4件の小児についてはワクチン接種歴が確認されました。10件(50~90歳代)については2件のみワクチン接種歴が確認されましたが、8件はワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る):小児の臨床診断例の報告が1件あり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 梅毒:16件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。国内での感染が15件、感染地域不明が1件でした。感染経路は、異性間性的接触が8件、異性間および同性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が4件、感染経路不明が3件でした。男性10件、女性6件でした。
- 風しん:臨床診断例の報告が1件あり、詳細は調査中です。ワクチン接種歴は確認できていません。

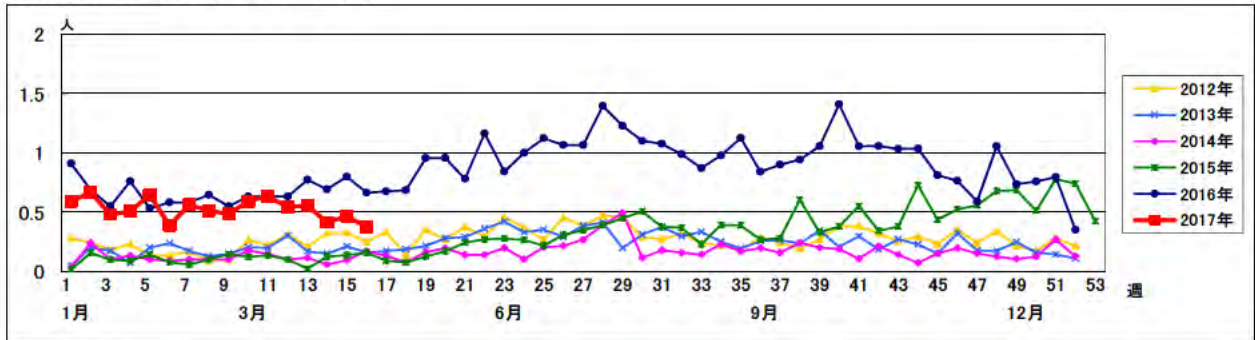
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第13週	3月27日～4月 2日
第14週	4月 3日～4月 9日
第15週	4月10日～4月16日
第16週	4月17日～4月23日

1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.38にて流行入り(目安:1.00)、第51週で13.67にて注意報発令(基準値:10.00)、第3週で32.07にて警報発令(基準値:30.00)となりました。第4週の47.83をピークとして漸減し、第12週で6.72にて警報解除基準値(10.00)を下回りました。第14週で4.71、第15週で3.88と漸減傾向でしたが、第16週は4.32となっています。今シーズンの流行はAH3でしたが、第16週では迅速検査にて81.2%がB型となっています。学級閉鎖の報告は、第15週で2件(小学校)、第16週で9件(うち小学校8件)の報告がありました。



2 流行性耳下腺炎: 2015年後半から漸増し、現在まで報告数が多い水準にて推移しています。第16週で定点あたり0.37となっています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 4件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:12件	女性: 0件

4 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.25	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	2.25	2.75	0.75	0.67

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件、内科定点14件、眼科定点2件、基幹定点7件で、定点外医療機関からは2件でした。

5月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株31例と遺伝子18例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(4月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎
アデノ 2型					1	
アデノ 型未同定	1	1				
インフルエンザ AH1pdm09型			1			
インフルエンザ AH3型N2			8			
インフルエンザ B型ビクトリア系統	1		11			
インフルエンザ B型山形系統			8			
パラインフルエンザ 3型	1					
RS		1		2		
ボガ	1					
ヒトメタニューモ	2	2	1			
ライノ	1	3	1			
ノロ						2
合計	1 6	1 6	28 2	0 2	1 0	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

4月の「感染性胃腸炎」は小児科定点から1件、基幹定点から*Salmonella* Typhiと*Salmonella* Enteritidisの2件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から4件、基幹定点から7件、定点以外の医療機関から9件でした。定点以外の医療機関のバンコマイシン耐性腸球菌の3件は*Enterococcus faecium vanA*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(4月)

### 感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	4月			2017年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌					2	4
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌		1			1	
サルモネラ属菌		1			4	2
不検出	1	0	0	1	9	1

### その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	4月			2017年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	3		5		
	T4			3		
	T6			1		
	T B3264			1		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						3
G群溶血性レンサ球菌		1			1	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2
バンコマイシン耐性腸球菌			3			4
レジオネラ属菌						3
インフルエンザ菌			1	1		1
肺炎球菌		3	3		3	6
結核菌					20	44
百日咳菌					2	
その他		3			42	15
不検出	1	0	2	1	2	5

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】